

事例①（茨城県水戸生涯学習センターの研修会）

- 研修名：地域学校協働活動コーディネーター等に関する研修会
- 目的：地域と学校の連携・協働を推進するに当たって、関係者の理解促進と地域学校協働活動コーディネーター等の地域の核となる人材の育成を図り、今後の取組の充実につなげる機会とする。
- 主催者：茨城県水戸生涯学習センター
- 開催日時：令和4年6月17日（金）
14時00分～16時00分
- 会場：茨城県水戸生涯学習センター 大講座室
- 講義：「地域と学校の連携・協働について」
- 講師：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 馬場 祐次朗 氏
- 受講対象者：地域学校協働活動推進員
地域コーディネーター、
市町村生涯学習関係職員、小・中学校職員、
放課後子ども教室・放課後児童クラブ（学童クラブ）指導員、
自治会（町内会）役員、NPO職員、
学校や子供達に関するボランティア等に興味のある方
- 参加者数：80名
- 研修内容：



- 1 はじめに
 - ・教育の領域（場）
 - ・社会教育とは
- 2 地域学校協働活動とは
- 3 学校・家庭・地域の連携の必要性
 - ・保護者・地域の学校経営参加の仕組み
- 4 地域学校協働活動の必要性
 - (1) 中央教育審議会答申
 - (2) 学習指導要領の改訂（平成29年3月）
 - (3) 地域学校協働活動を進めるための法律改正等
 - (4) 第3期教育振興基本計画
- 5 地域学校協働活動の方向性～連携・協働と総合化・ネットワーク化～
 - (1) これからの地域学校協働活動のキーワード
 - (2) 地域学校協働本部（社会教育プラットフォーム）の必要要素
 - (3) 学校・家庭・地域の連携による地域学校協働活動を進める視点
 - (4) 連携・ネットワークを進める際の留意点
- 6 地域学校協働活動の内容
 - (1) 地域学校協働活動の現状
 - (2) 今後求められる活動内容
- 7 コーディネーターの役割
 - (1) コーディネートとは
 - (2) 地域におけるコーディネーターのしごと
 - (3) コーディネーターに求められる資質・能力
- 8 皆さんへの期待

<主な感想等>

○馬場先生のお話の中で、地域を再構成する、大人の教育も兼ねているというスタンスを忘れない、というお言葉がありました。win-winの関係を構築できるように、学校現場で取り組んでいこうと思います。本日はありがとうございました。

○来年度より、コミュニティー・スクールを導入する予定ですが、本年度の内に、組織案や予算、学校教育の年間計画等、様々な準備があるため、具体的な進め方を学んでいきたいと思います。地域と学校の連携・協働の意義についてたいへん参考になりました。ありがとうございました。

○愛媛県松山市のふれあい食堂の活動は、地域の困りごとをマッチングして解決した良い事例ですし、奈良県奈良市では、子どもたちが主体となって地元、企業を巻き込んだことが好循環となったとても良い事例だと思います。作物を育て、調理をして、商品にして、販売をする。これは学びが生き抜く力になるもっともよい形なのかなと思いました。徳島県佐那河内村の村育では、コーディネーターの方が良い働きをされていて、このようなキーマンがいると子どもたちが活性化すると実感しました。茨城県もこのような形を実現したいです。

事例②（新居浜市立大生院公民館の研修会）

- 研修名：こどもを育む「縁」を結ぶ ～みんなで作るコミュニティスクール～

ボランティア活動コーディネーター養成研修会

- 目的：各地域パートナーシップ事業の中心となるコーディネーター及び活動協力者の資質向上を図り、相互の意見交流の場とする

- 主催者：新居浜市立大生院公民館

- 開催日時：令和4年7月9日（土）

14時00分～17時00分

- 会場：新居浜市立大生院公民館 2階
多目的室

- 講義：こどもを育む「縁」を結ぶ

みんなで作るコミュニティスクール

- 講師：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター

コーディネーター 興梶 寛 氏

- 受講対象者：現在、各学校でボランティア活動に協力いただいている方、
学校支援ボランティアを実践している方、
放課後子ども教室・放課後児童クラブ等職員、
地域と学校の連携・協働に関わる役割を担っている方、
小・中学校教職員、PTA関係者等

- 参加人数：39名

- 研修内容：
講 義

第1章 つながる、つなぐ、分ちあう

- ◎子どもは、だれの子？
- ◎こどもを育む「縁」を結ぶ
- ◎ユネスコが提案する21世紀の学び
- ◎日本の教育目標とは何か「生きる力」
- ◎社会に開かれた教育課程
- ◎社会に開かれた学校
- ◎地域学校協働活動とは
- ◎コミュニティスクールの社会的使命

第2章 コミュニティに秘めた教育力に光をあてる

- ◎7つの秘められた力
- ◎人と人、人とコミュニティの「縁」を結ぶ
- ◎ボランティアコーディネーター
- ◎コーディネーターのための自己評価ポイント



第3章 コーディネートの「壁」を超えるために

◎コミュニティの「壁」を超えて行動を起こす

- ・つながる「壁」
- ・つなぐ「壁」
- ・わかちあう「壁」

◎2つのプログラム実践事例から考える

- ・千葉県木更津市教育委員会の事例から
- ・神奈川県横浜市都筑区・東山田中学校区の事例から

第4章 子どもたちが必要とされるチャンス！

◎もっと社会へ、もっと世界へ飛び出そう！

◎水に入らなければ泳ぎを憶えることはできない

◎ボランティアに秘めた3つの学び

◎コミュニティを教室にしたアクティブな学びを！

◎無限に広がる公民館の可能性

◎“縁結び人”になろう

<ワークショップ>

◎意見交換「コーディネートの課題と解決策」

視点1:学校の課題

視点2:地域の課題

視点3:家庭の課題

視点4:教育行政の課題

視点5:コーディネーターの課題

<主な感想等>

<講義>

- ・先進地の事例が分かりやすく、今後の活動に取り入れたい。
- ・コミュニティスクールのイメージ、効果が分かった。
- ・講義がとても分かりやすく、とても勉強になった。

<ワークショップ>

- ・様々な立場の方と情報共有・意見交換ができ、非常に有意義な時間であった。
- ・いろいろな方面からの視点で、いろいろためになった。
- ・地域の中で子どもたちの活躍する場をつくるためにも、地域の方と関わる機会を大事にしたいと思った。
- ・それぞれの意見の違い、役割の違いがあって、興味深かった。

<全体>

- ・横の連携を取りたい。
- ・自由に発言ができて、良い研修だった。
- ・ワークショップの時間がもう少しあればよかった。そのくらい話が盛り上がり、充実したディスカッションができた。
- ・今後の活動の道筋が見えてきたような気がする。

事例③（熊本県の研修会）

- 研修名：地域学校協働活動推進員等研修
- 目的：地域学校協働活動推進員等を主対象とし、地域住民と学校関係者との連絡調整や地域学校協働活動の企画を行う知識及びスキルの向上を図る。
- 主催者：熊本県教育委員会（主管：熊本県阿蘇教育事務所）
- 開催日時：令和4年7月15日（金）
13時30分～16時30分
- 会場：国立阿蘇青少年交流の家
2F大会議室
- 講義：「地域と学校の連携・協働における推進員の役割とコーディネートについて」
- 講師：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 大坪 直子 氏
- 受講対象者：統括的な地域学校協働活動推進員、地域学校協働活動推進員、
市町村教育委員会担当者及び学校地域連携担当者
- 参加者数：41名
- 研修内容：



講義

- ◎地域学校協働活動とは
- ◎どうして今、連携・協働が必要か
- ◎連携・協働で育つ子どもたち
- ◎地域学校協働活動の教師への効果・影響
- ◎社会教育機関としての公民館の役割
- ◎地域の教育資源【地域の宝】を活用した学習プログラム
- ◎地域の課題を地域で考える
- ◎協働活動として実施される防災訓練・防災教育の事例
- ◎地域課題に学ぶ活動事例
- ◎推進員・コーディネーターの役割
- ◎ボランティア人材（人財）の活動
- ◎ボランティアをどう集めるか
- ◎ボランティアにはどのように協力してもらうか
- ◎子どもも大人も学び合い育ち合う
- ◎活動事例

<主な感想等>

○大坪先生のお話を聞いて「地域とどのようにつながって、どんな子どもたちを育てたいのか」という現場での悩みを解決するヒントをいただいたような気持ちになった。

○今後の取組の方向性や活動のあるべき姿がどんなものなのか知ることができて、参考になった。実践に繋げていきたいと思う。

○目標やビジョンの共有を図ることの重要性を改めて感じた。地域についての学習や地域の方から学ぶ取組から郷土愛を育み自尊感情の高まりを期待したい。

○何か工夫をしながら進めていくことと目的に沿った活動を進めていくことが大切だと感じた。

○企画、立案、改善にしっかりと役立てていきたい。

○推進員の方と話し合いながら、よりよい方法を考えていく必要があると改めて感じた。

○話を聞いて、推進員や地域の方が自由に利用できるフリースペースを学校に作っていきたいと思った。

事例④（滋賀県教育委員会の研修会）

- 研修名：滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
- 目的：地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体となった推進方策について理解を深め、これからの地域と学校の在り方について学びを深め、一層の推進を狙う。
- 主催者：滋賀県教育委員会
- 開催日時：令和4年8月26日（金）
13時30分～16時30分
- 会場：滋賀県立男女共同参画センター
G-NETしが 大ホール
- 講義：コミュニティ・スクールと
地域学校協働活動の一体的推進
- 講師：全国体験活動ボランティア活動
総合推進センター
コーディネーター 山本 裕一 氏
- 受講対象者：コミュニティ・スクール地域学校協働活動市町担当者、市町立校園関係者、
学校運営協議会関係者、地域学校協働活動関係者、
県市町の社会教育委員、地域連携担当教職員
- 参加人数：159名（会場76名、オンライン83名）
- 研修内容：
 1. CS と地域学校協働活動との一体的推進とあるが・・・
なぜ、一体的推進をするのか
 2. 一体的推進の効果は、あることはある・・・
 - 地域学校協働活動
子どもたちにとっていいこと
学校・教職員にとっていいこと
地域にとっていいこと
 3. 先進事例から何を学ぶのか。
 - 三鷹市の事例紹介
 4. 体制は整いました。
 - 一体的推進の実質化
 - 協働によって「当事者意識」が育つ
 5. さらなるステージに向けて
持続可能な活動のために



<主な感想等>

・学校の教育課程で学んだことが、地域の中で生かされることで、子どもたちの自己肯定感が高まったり、地域に貢献できる機会となったりするところには、「なるほど」と感じました。子どもも、教師も、地域の人も、それぞれに役割があり、当事者意識をもって参加することの大切さについて学ぶことができました。

・いろいろな立場の者が一緒になって子どもたちを育てていくとなると難しいことのように思いますが、当事者意識を持ってもらうということをキーポイントとして進めていくという考え方がとても分かりやすかったです。

・先進事例から、学校は、地域のサポートを受ける立場ではなく、サポートをする立場であるということを知ることができました。学校の教育課程で学んだことを実際に活かし、地域の方々から認めてもらうことにより、子どもたちの自己肯定感に結びつくということを改めて感じました。学校と地域で子どもを育てていくことの重要性を感じました。

・山本先生の話拝聴し、「一体的推進」は「一体」ではないということや、形骸化させないためのPDCAサイクルの方法など、今後の活動の推進に活かしていきたいと思いました。

・校内体制づくりや担当者づくりがうまくいくかが一つのカギと感じました。子どもたちが学びたいという気持ちが地域の人と共感できることが大切だと感じました。

・やはり中学校区での連携は大切だと思います。9年間関われば地域との関係も豊かになるのではないかと思います。そこに幼稚園も少し関わらせていただき、「大きくなったらあんな風に活躍できるんだ！」と成長することに喜びを感じてくれたら良いなと思いました。

・持続可能であるために、今後につないでいくためにという観点からも、「大きくなって自分がやってもらったことをしに戻ってくる」という中高生の姿や「楽しいかどうか。笑顔が嬉しい」という発表から、「やりがい」や「しあわせ感」が大切なポイントであることを再認識できました。

・質疑応答での「高齢化」に関する話題が、自校の課題と重なりました。運営委員会様を含め、高齢な方に依頼する状況が続いています。しかし、その先のことを考えると、スムーズな世代交代ができるようにすることは必須です。新しい人材の発掘にも力を入れていこうと思います。また、「公式 SNS」の話題が大変興味深かったです。学校と地域が手軽なツールで広くつながれるようになると、より一層の地域力強化につながると感じました。

・「支援」から「協働」への実質化や、「熟議」の必要性などのキーワードが印象に残りました。特に、「当事者意識を持ってもらう熟議」の言葉が印象に残りました。また、今後の問題点として、体制が整ったからこそ学校運営協議会と地域学校協働活動を別々に考えていくこと、PDCAを形骸化させないことなどの、今後の見通しが持てたことを、これからも生かしていきたいと考えています。パネルディスカッションでは、形骸化させないために絶えず様々な方からの声を聴き、子どもも大人も楽しめるのかなどの視点をもって振り返りをしながら進めていくこと等、活かしていきたいと思いました。

事例⑤（埼玉県教育委員会の研修会）

- 研修名：令和4年度コーディネーターステップアップ研修
- 目的：幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動の推進に向けて、地域学校協働活動（学校応援団活動・放課後子供教室等）の人材を育成する。
- 主催者：埼玉県教育委員会
- 開催日時：令和4年9月16日（金）
13時30分～16時30分
- 会場：埼玉県民健康センター
- 講義：「地域・学校が効果的に協働していく地域学校協働活動の在り方」
- 講師：全国体験活動ボランティア活動総合推進センター
コーディネーター 橋本 洋光氏
- 受講対象者：放課後子供教室コーディネーター、放課後児童クラブスタッフ、学校応援コーディネーター、行政職員等
- 参加者数：40名
- 研修内容：



内 容

1. 平成27年12月中教審答申
その柱：「支援」から「連携・協働」へ
 - ①地域とともにある学校
 - ②子供も大人も学び合い育ち合う教育体制の構築
 - ③学校を核とした地域づくりの推進
2. 子供たちの社会環境の変化（予測困難な社会）と「社会総がかりの対応」
3. 連携・協働の目的＝子供たちの「生きる力」
4. 連携・協働のしくみ
5. 「個別」の活動から「総合化・ネットワーク化」へ
6. 次のステップへ（R2～R4）
7. 推進員（コーディネーター）の役割
8. 地域学校協働活動の持続可能性
9. ボランティアの可能性が高い人々
10. 今後の方向性：学校を核とした地域づくり、社会に開かれた教育課程
11. 地域資源
12. 地域資源を活用した学習プログラム
13. プログラム作成のポイント
14. 学校を核とした地域づくり
15. 他の地域の事例
16. 連携・協働で育つ子供像
17. コミュニティスクールと地域学校協働活動の問題
18. その課題解決策
19. 地域・学校が効果的に協働していくCSの事例 鳥取県南部町の場合
20. 地域学校協働活動の有効性

ワークショップ 「これからのコーディネーターに求められること」
グループ協議（KJ 法による）

<主な感想等>

- 子育てには、地域の力、学校・行政・保護者の連携・協力をどう得られるか考えていくことが大切であることを学んだ。
- 多くの人を巻き込んで、活動に参加してもらう方法を考えることが大事であると感じた。
- 学校内に地域住民が集まることのできる空間を作ることを学校に提案したい。先生方とボランティアさんとのコミュニケーションを図る場を作りたい。
- 学校と地域の窓口になるために、学校にもっと顔を出したい。
- 体験学習を掘り下げて、子供の生きる力を向上させたい。
- 体験活動から社会貢献活動にすることで、児童生徒の成長の場、地域の人々の成長の場になることが分かった。
- ワークショップをとおして、参加者みんなが子供を愛していることがわかった。
- ワークショップで、「コーディネーターは全て自分でやるのではなく、仕掛けを作り他の人を上手に動かしていくこと」を先生が話され、次の人材のためにも自分はどうすればよいか考えて動いていきたい。
- 出来ないではなく、変えることが出来るよう、地域も学校も一緒になって取り組むことが必要と強く感じた。